

## JICA委託事業 スタート!!

本会では、10月10日にJICAと契約を交わして、草の根技術支援事業に着手しています。1年半の事業の中で、11月16日から初渡航事業を実施しました。対象国はミクロネシア。チューク州の非電化の離島であるFONOTON島で、女性たちの団体に対してソーラーシステムに関する技術支援を行い、ソーラーミシンの保守管理を自分たちで行いながら、そのミシンで製作された伝統的な民族衣装の販売を行うことで、現金収入を生み出すことを目指しています。

2016年に渡航して島の女性たちと交わした約束を果たすため、長い時間をかけて準備した事業です。これまでに超えなければならない山がいくつもありました。渡航した後も、現地で出くわす様々なアクシデントに、想定外を想定して動くことを求められ続けました。それでも、あきらめなければ着地点は見つかるのだということを確認することができました。すべては専門的な知識と経験を持つ仲間たちのおかげです。心から感謝したいと思います。

現地では、日の丸のシールを付けた支援品が使われなくなって打ち捨てられている様子をいくつも目にしました。青く澄んだ海の間近にうずたかく積まれたごみの山も目にしました。

女性たちが動き出したことで何か変わるのか？変えられるのか？その結論を得るまでにはまだまだ長い道のりがありそうです。でも、確かなことが一つ。日本人が支援品を届けるだけでなく、一緒に困難な出来事を潜り抜ける意欲のある仲間だということを見てもらえたこと。すべてはここからスタートです。



▲現地ミクロネシア、事業の様子▲

出た▼友人の一人は「うちだけじゃないし、回り皆だもの仕方ないよ」と語っていたが、この災害に今すぐ私達が出来ることが何だろるか胸が痛んだ▼東日本大震災の際の経験が脳裏に浮かんだ。ピープルがストックしていた衣類を支援物資として避難所に提供した事だ。3・11のあの寒さのなか冬物のコートやスボン、セーター等を次々届けた。担当者は同じ物でないと配れないと躊躇したが、必要とする方々は喜んで受け取ってくれた▼今回は現地に支援品を届けるためには拠点が必要だと感じた。幸い現場に一番近い場所に協力者が見つかった。被災から3日めだった▼一方ピープルが発信する情報に全国から掃除用のタオルやビニール手袋、ホックカイロ等が届き始めた。2カ所の拠点に支援物資を届ける日々がスタートした。

## 第18回 いわき地球市民フェスティバル

11月24日、常磐湯本温泉古滝屋10階の大広間は、国際色豊かな社交場に生まれ変わりました。今年度の「いわき地球市民フェスティバル」がこの大広間を会場として催されたのです。これまで18回の開催を重ねてきたフェスティバルですが、外国にルーツを持つ市民の方々による日本語でのショートスピーチコンテストに形を変えてからは3回目の開催。徐々に市民の方々に関心を寄せていただけるようになり、今回は140名ほどの方が会場を埋め尽くしました。

出場したのは、中学生から留学生、市内の企業で働く技能実習生など14名の方々です。これまでの回も素晴らしいスピーチが多かったのですが、今回はスピーチの内容がぐっと深みを増して、地域コミュニティや高齢者の独居などの問題にも触れられて、来場者が思わず「うーん」とうなってしまうようなものばかりでした。



▲第18回地球市民フェスティバルの様子▲

来場者による審査も参考に厳正な審査が行われ、高等教育機関で就学している方の部門ではルーン ハ インさんが、一般の部ではウェイズインウーモンさんが大賞を受賞されました。

また、会場では世界のお菓子の紹介や楽しいステージアトラクションのほか、ピープルのフードバンク事業に協力しようとフードドライブのボックスも設置され、食品をお持ちくださった来場者の方が入れてくださる姿が見受けられました。

私たちの活動を会員として支えて下さい。  
会費納入をよろしくお願い致します。

会費：活動会費（実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さる方） 2,000円/年

賛助会員（資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員） 10,000円/年

郵便振替（02110-0-24908）でお送り下さい。

### いざやま

台風19号によるいわき市の被害は甚大である。2級河川夏井川の決壊と好間川の氾濫に続き一週間後の大雨。県内でも最も被害の大きい地域になってしまった▼最悪なことに被災地の平下平窪地区にある市の浄水場が稼働できなくなった▼災害状況が尋常でないことはニュースで知っていたが、2日目漸く水の引いた現地に入るや息を呑む光景が広がっていた。泥だらけの畳、電気製品も家財道具等全てが道路沿いにうず高く積み上げられていた。道路を走るのにもサイドミラーを畳んで走らなければ危険を感じる状況だった▼この家も知人や親戚が駆けつけ作業に当たっていたが水道が出ない状況下での作業は苦勞の連続だったと思う。この間、まちは車で溢れ目的地に着くまでに2時間、町を出るのに2時間を要し私自身ため息が出た▼友人の一人は「うちだけじゃないし、回り皆だもの仕方ないよ」と語っていたが、この災害に今すぐ私達が出来ることが何だろるか胸が痛んだ▼東日本大震災の際の経験が脳裏に浮かんだ。ピープルがストックしていた衣類を支援物資として避難所に提供した事だ。3・11のあの寒さのなか冬物のコートやスボン、セーター等を次々届けた。担当者は同じ物でないと配れないと躊躇したが、必要とする方々は喜んで受け取ってくれた▼今回は現地に支援品を届けるためには拠点が必要だと感じた。幸い現場に一番近い場所に協力者が見つかった。被災から3日めだった▼一方ピープルが発信する情報に全国から掃除用のタオルやビニール手袋、ホックカイロ等が届き始めた。2カ所の拠点に支援物資を届ける日々がスタートした。